

被災地で見た、厳しい現実：
熱血薬剤師、始動！「備えあれば憂いなし」

東日本大震災の発生直後、医療支援の第一班として「九州・山口薬剤師会」から派遣された、「リベロ原田薬局」の代表・田中洋介さん。すべてのインフラが破壊された被災地、そこでの医療活動は困難を極めた。この経験を基に、田中さんは**災害時医療支援車「ファルマベース」**を個人で配備。薬局機能のほか、情報通信機能や野営設備も完備する。

強い使命感で作り上げた車両には、随所にその経験と知恵が光る。今後は「**ファルマベース**」を核に、被災地で活躍できる薬剤師の育成に力を注ぐ。さらに、「薬剤師はもつと役に立てたはず」と、田中さん。学校薬剤師には、学校の環境を衛生的に保つノウハウがある。薬を出すだけでなく、避難所の衛生面にも力をいれたと話してくれた。



上：取締役社長の田中洋介さん。キャンピングカーを改造したファルマベースは、隊員 3 人が 5 日間活動できる自己完結型の設備。下：約 300 種類の薬を積める。